二　下水道費　人口

1　密度補正に用いる密度は、次の算式により算定した数（小数点以下三位未満の端数があるときは、その端数を四捨五入する。）とする。

算式

$$(B \times \underline{5.83} + C \times \underline{11.95} + D \times \underline{16.96} + E \times \underline{25.41} + F \times \underline{27.45} + G \times \underline{21.74} + H \times \underline{24.60} + I \times \underline{26.23} + J \times \underline{33.44} + K \times \underline{16.05} + L \times \underline{30.76} + M \times \underline{25.08} + N \times \underline{20.73} + O \times \underline{26.75}) \div A$$

［略］

［2　略］

三　その他の土木費　人口

密度補正に用いる密度は、次の算式により算定した数（小数点以下三位未満の端数があるときは、その端数を四捨五入する。）とする。

算式

$$\frac{(B + C) \times 0.704}{A}$$

算式の符号

［略］

B　次の算式によつて算定した額

算式

$$\sum_{n=6}^{7} \{A_n \times (1 - C_n \div B_n) \text{ 及び } D_n \times (1 - F_n \div E_n)\}$$

$A_n \times (1 - C_n \div B_n)$ 及び $D_n \times (1 - F_n \div E_n)$ に整数未満の端数があるときは、その端数を四捨五入する。

［略］

四　小学校費　児童数

1　密度補正Ⅰに用いる密度は、スクールバス等の数に一一八・九九を乗じて得た数を当該市町村の測定単位の数値で除して得た数（小数点以下三位未満の端数があるときは、その端数を四捨五入する。）とする。

［2・3　略］

4　密度補正Ⅱに用いる密度は、次の算式により算定した数（小数点以下三位未満の端数があるときは、その端数を四捨五入する。）とする。

算式

$$\frac{1}{\text{———}} \times (468 \times A + 144.238 \times B + 698 \times C)$$

二　下水道費　人口

1　密度補正に用いる密度は、次の算式により算定した数（小数点以下三位未満の端数があるときは、その端数を四捨五入する。）とする。

算式

$$(B \times \underline{5.46} + C \times \underline{10.97} + D \times \underline{15.61} + E \times \underline{22.48} + F \times \underline{23.73} + G \times \underline{20.19} + H \times \underline{22.04} + I \times \underline{24.01} + J \times \underline{31.38} + K \times \underline{15.06} + L \times \underline{28.87} + M \times \underline{23.53} + N \times \underline{18.20} + O \times \underline{26.04}) \div A$$

［同左］

［2　同上］

三　その他の土木費　人口

密度補正に用いる密度は、次の算式により算定した数（小数点以下三位未満の端数があるときは、その端数を四捨五入する。）とする。

算式

$$\frac{(B + C) \times 0.725}{A}$$

算式の符号

［同左］

B　次の算式によつて算定した額

算式

$$\sum_{n=5}^{7} \{A_n \times (1 - C_n \div B_n) \text{ 及び } D_n \times (1 - F_n \div E_n)\}$$

$A_n \times (1 - C_n \div B_n)$ 及び $D_n \times (1 - F_n \div E_n)$ に整数未満の端数があるときは、その端数を四捨五入する。

［同左］

四　小学校費　児童数

1　密度補正Ⅰに用いる密度は、スクールバス等の数に一一九・五二を乗じて得た数を当該市町村の測定単位の数値で除して得た数（小数点以下三位未満の端数があるときは、その端数を四捨五入する。）とする。

［2・3　同上］

4　密度補正Ⅱに用いる密度は、次の算式により算定した数（小数点以下三位未満の端数があるときは、その端数を四捨五入する。）とする。

算式

$$\frac{1}{\text{———}} \times (453 \times A + 135.811 \times B + 670 \times C)$$